

(2024年3月17日配信)

NHK ラジオ深夜便「明日へのことば」3月24日(日)4時台

## 「ハープの調べで 心によりそう」

♪♪・・・キャロル・サックハープ演奏 IYouWe 他 (youtube.com)・・・♪♪

出演 キャロル・サック リラ・プレカリアプログラム・ディレクター



キャロル・サックさんが、ハープに惹きつけられたのは、わずか3歳の時。手に取って、初めて音を出したのは40歳。50歳の時、ハープを役立てる方法が何か無いかと知ったのが、音楽死生学という学問。アメリカの大学で2年間学び、日本で、ただ1人という音楽死生学士の資格を得て、人々のこころと身体の癒しに貢献している。キャロルさんは、日本で、パストラル・ハープという講座を立ち上げ、これまでに40人ほどが、その技術を習得した。大学時代には、看護学と教育学を学んだキャロルさん。その明るい人柄が、ハープの音色に生かされ、心が和むお話を聞かせていただいた。



2013・12・13「唐丹タンタルチア祭」



2013・12・13「2020年3月まで支援継続集会」



2016年12月5日「クリスマス慰問」



2019年3月7日「ハソウ寄贈」

東日本大震災犠牲者に捧げる「鎮魂の歌」：[https://www.youtube.com/watch?v=XAN\\_P97ieag&feature=youtu.be](https://www.youtube.com/watch?v=XAN_P97ieag&feature=youtu.be)

# 「唐丹小中学校訪問記」 坂口憲一郎（岡山県）

(2023年10月記)



唐丹希望基金が遺したものは、大きい。大災害にやむにやまれず、一人の女性が基金を立ち上げ、その思いが、全国から世界に広がったのだ。唐丹を、初めて訪れたのは、雪で真っ白、、寒々とした日だった。心に残っているのは、児童の元気な挨拶。目がキラキラとしている。一人一人が困難を抱えているにもかかわらず、その一瞬が、生き生きとしている。児童たちのエネルギーは、大人へのエネルギーになるに違いない。

唐丹は、自然に恵まれている。自然は、人に良いことも、悲惨な事も、もたらす。



「茶席体験」で、ハソウを吹く坂口憲一郎さん

唐丹からの帰路、釜石線の車窓から2時間近く、山や林を眺め、美しく見飽きない風景が印象に残る。

晩秋の紅葉、、遠く連山の頂きにみえる白雪。

人は、自然に癒され、生かされている。児童達も、自然の中でこれからも困難を乗り越え、生き生きと成長して欲しい。不思議な繋がり、唐丹希望基金に、かかわれた事に感謝したい。

-2023年10月21日唐丹小中学校文化祭訪問-

